

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立細谷小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	72人	算数	72人	理科	72人
第5学年	国語	64人	算数	64人	理科	64人

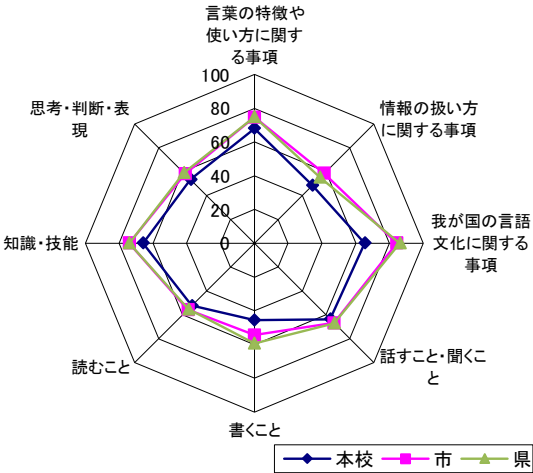
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立細谷小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	67.9	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	48.6	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	65.3	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	63.5	66.7	66.9
	書くこと	45.5	54.3	59.3
	読むこと	52.3	55.6	55.2
観点	知識・技能	65.9	74.1	74.0
	思考・判断・表現	53.4	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

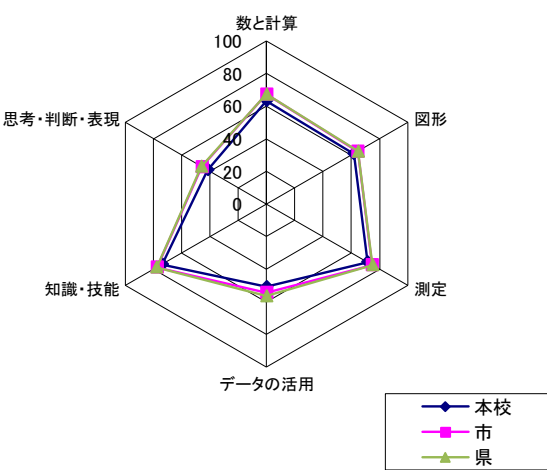
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●第3学年に配当されている漢字については、読み書きともに県の平均正答率を下回った。 ●「主語と述語の組合せとして適するものを選ぶ」設問の正答率が、県の平均正答率を13.1ポイント下回っている。	・新出漢字の指導では、繰り返し練習したりAIDリルを活用したりして、定着を図る。また、既習漢字においては他教科や日記指導でも積極的に使えるように指導していく。 ・国語の授業において、授業の始めに短文作りをしたり、日記指導を取り入れたりして、主語と述語の関係を正しく捉えられるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	●国語辞典の使い方についての正答率が6.4ポイント、「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する」設問の正答率が9.2ポイント、県の平均正答率を下回っている。	・国語辞典の使い方を再度指導したり、授業の中で分からない言葉は積極的に国語辞典を使って調べる活動を取り入れたりすることで、国語辞典を使う意義を学べるようにする。 ・文章を読む際には、中心となる語や文を色分けすることで、視覚的に文章の内容を捉えることができるような指導をしていく。
我が国の言語文化に関する事項	●「漢字のへんやつくりを理解している」設問の正答率は、県の平均正答率を20.8ポイント下回っている。	・新出漢字を学習する際には、読み方や書き方だけでなく、漢字のへんやつくりにも注目させながら指導していく。また、既習漢字を使って、へんやつくりの仲間分けなども、授業で取り入れる機会を設けていく。
話すこと・聞くこと	○「司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめる」設問の正答率は、県の平均正答率を5.1ポイント上回った。 ●「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話す」設問の正答率は、県の平均正答率を14.8ポイント下回った。	・話を聞く際には、メモを取りながら聞いたり、話の中心を意識して聞いたりすることができるように指導していく。 ・授業の中で、理由を挙げながら自分の考えを発表する場面を意図的に設け、話す機会を増やしていく。 ・朝の会や帰りの会、学級活動等で、スピーチや話し合い活動を積極的に取り入れ、表現力が高まるように指導していく。
書くこと	●領域全体で無回答率が30.6%と、他の領域に比べ、高くなっていた。 ●「指定された長さで文章を書く」設問の正答率は15.5ポイント、「自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書く」設問の正答率が15.7ポイント、県の平均正答率を下回っている。	・自主学習で日記を取り入れ、文章を書くことに苦手意識をもたないような指導をする。また、日記を書く際には、文字数を指定したり2段落構成にしたりするなど、決められた条件で書くことができるように指導を工夫する。 ・自分の考えや根拠を示した文章が書けるように、国語だけでなく他教科でも指導していく。
読むこと	○「文章を読んで感じたことや分かったことを共有する」設問の正答率は11.3ポイント、「叙述を基に文と文のつながりを捉える」設問の正答率は5.6ポイント、県の平均正答率を上回っている。 ●「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える」設問の正答率は、県の平均正答率11.1ポイント下回っている。	・引き続き、朝の読書タイムや読書週間などを通して、読書の習慣を定着させる。 ・物語文の学習では、登場人物の言葉や動作、表情などから登場人物の気持ちを読み取るように指導していく。 ・説明文を読む際には、意味段落や形式段落を意識し、文章の内容理解につなげていけるよう指導する。

宇都宮市立細谷小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.2	67.3	67.4
	図形	61.7	64.5	64.7
	測定	71.5	74.7	74.9
	データの活用	50.7	54.4	56.4
観点	知識・技能	74.0	77.6	77.8
	思考・判断・表現	41.7	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

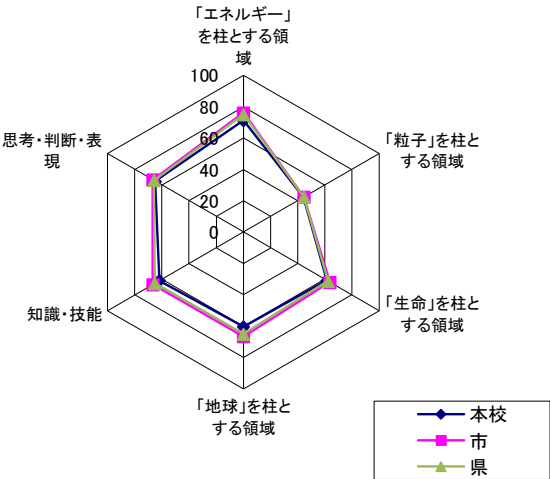
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○小数のしくみや表し方として正しいものを選ぶ問題では、市の平均正答率が96.7%に対して、本校の平均正答率が98.6%で1.9ポイント高かった。 ●整数－小数第一位の計算では、市の平均正答率が48.8%に対して、本校の平均正答率が36.1%で12.7ポイント低かった。	・大きな数の表し方や分数・小数の仕組みを正しく理解し、繰り上がりや繰り下がりがある計算もできるように、スマイルネクストドリルや朝のスキルタイムなどを使い、繰り返し学習していく。
図形	○「図形」の問題では、市の平均正答率が64.5%に対して、本校の平均正答率は61.7%で、2.8ポイント低いものの、他の分類の差よりは低い。 ●球の半径について、正しいものを選ぶ問題では、市の平均正答率が63.4%に対して、本校の平均正答率が52.8%で10.6ポイント低かった。	・色板や立体模型などを使って、抽象的な問題でも解けるように具体物を使った支援を行い、図形についての感覚を養う。
測定	○「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」の4分類の中では、「測定」が本校の平均正答率が71.5%と高かった。 ●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題では、市の平均正答率が50.1%に対して、本校の平均正答率が43.1%で7ポイント低かった。	・自分の身の回りにあるものを測定する経験を通して、様々な測定器具の扱いに慣れさせる。
データの活用	○棒グラフを読み取り、2番目に多かったスポーツを答える問題では、県と市の平均正答率が共に89.2%に対して、本校の平均正答率が91.7%で2.5ポイント高かった。 ●2つの棒グラフで1目盛りの数が異なることに注意しながら、棒グラフを読み取り、正しい物を選ぶ問題では、市の平均正答率が19.7%に対して、本校の平均正答率が9.7%で10ポイント低かった。	・算数の時間だけでなく、社会科の時間の表やグラフの読み取りなど、様々なデータの読み取りや活用に慣れさせていく。

宇都宮市立細谷小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	71.3	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	44.4	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	61.4	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	60.3	66.6	64.9
観点	知識・技能	61.8	66.8	65.4
	思考・判断・表現	65.0	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○領域全体の正答率は7割を超えており、他の領域よりも高い正答率となっている。 ○大きい音と小さい音を比べた時のふるえ方について問われた設問では、正答率が91.7%と、市の平均正答率を3.4ポイント上回っている。 ●電気を通す性質があるものの名称を答える設問では、正答率が50%と、市の平均正答率を14.1ポイント下回った。	・正答率が高かった大きい音と小さい音を比べた時のふるえ方については、音楽室の楽器を用いて実験をした。体験を伴う学習の方が、学習内容の定着が図れる傾向にある。今後もしっかりと準備し、丁寧に実験に取り組ませていく。 ・電気を通す性質があるものの名称については、電気を通す性質があるものとじしゃくを引きつける性質があるものの区別があいまいだったことが原因と思われる。似通ったものを扱う場合には、その区別をしっかりと行っていく。
「粒子」を柱とする領域	○領域全体の正答率は、市の平均正答率とほぼ同程度である。 ○姿勢を変えて測った体重がどのようになるかを選び選んだ理由を答える設問では、本校の正答率が市の平均正答率を3.8ポイント上回っている。 ●領域全体の平均無回答率が13.4%で、市の平均無回答率より1.1ポイント高かった。	・実験を行う単元については児童の興味・関心も高いようで、正答率も低くない傾向にあるため、今後もしっかりと準備し、丁寧に実験に取り組ませていく。 ・無回答率が高いことについて、この領域は学力調査の最終問題であったことから、この問題まで終わらなかった児童が1割程度いたことが予想される。タブレット等を活用し、学習内容の習熟を図る。
「生命」を柱とする領域	○領域全体の正答率は、市の平均正答率とほぼ同程度である。 ○虫眼鏡の使い方、ホウセンカのように、アリのあしにつき方など市の平均正答率を上回る設問もあった。 ●モンシロチョウが食べるえさの量を選ぶ設問では、正答率が52.8%と、市の平均正答率を13.8ポイント下回った。	・本校は自然豊かな環境にあり、昆虫や植物を観察する機会に恵まれている。今後もこの利点を理科の観察・実験に生かしていく。 ・昆虫が苦手な児童について、標本や動画を用いて知識を身に付けられるようにする。
「地球」を柱とする領域	○かげと太陽の位置についてあてはまる内容を選ぶ設問では、正答率が87.5%と、他の領域と比べ高い正答率となっている。 ●温度計の使い方を選ぶ設問では、正答率が47.2%と、市の平均正答率を27.9ポイント下回った。	・他領域同様、実体験を伴う内容は高い正答率となっている。 ・実験結果を利用し、同じような事象を予想、推測したり、説明したりすることには、苦手意識があるため、実験では考察に時間をかけて取り組むようにする。 ・温度計の使い方については、グループで実験を行ったため、十分に実験技能が身に付けられなかったことが考えられる。役割分担を明確にしたり使い方を別途確認したりするなどして技能の習熟を図る。

宇都宮市立細谷小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の肯定割合は97.2%で、市や県の平均よりやや高く、家庭学習の習慣は身に付いているといえる。

○「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定割合は72.3%で、市や県の平均より相当高く、学習内容を確実に習得しようとする姿勢がみられる。今後も家庭学習の進め方の指導を行い、基礎基本の定着を図っていきたい。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」の肯定割合は66.7%と市や県の平均よりやや高い。タブレット型パソコンを学校や家庭で効果的に活用することができているといえる。

○「クラスは発言しやすいふん囲気である」の肯定割合が83.4%と市や県の平均よりやや高い。各クラスの学級経営が円滑に進められており、前向きな児童を認め励ます雰囲気があるといえる。

○「毎日、朝食を食べている」の肯定割合が98.7%と市や県の平均よりやや高い。家庭や学校で朝食を摂ることの大切さを学び、実践している児童が多いといえる。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定割合は59.7%、「自分には、よいところがあると思う」の肯定的割合は76.4%と市や県の平均よりやや低かった。児童一人一人が授業や生活の中で、活躍できる場面を設け、継続して児童を認め励まし、本校の研究主題である「自己有用感」を高める指導をしていく必要がある。

●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の肯定割合は75%と市や県の平均よりやや低かった。児童が自ら選択して取り組む学習活動の重視や、考えを深める活動を取り入れた授業づくりを行っていく必要がある。

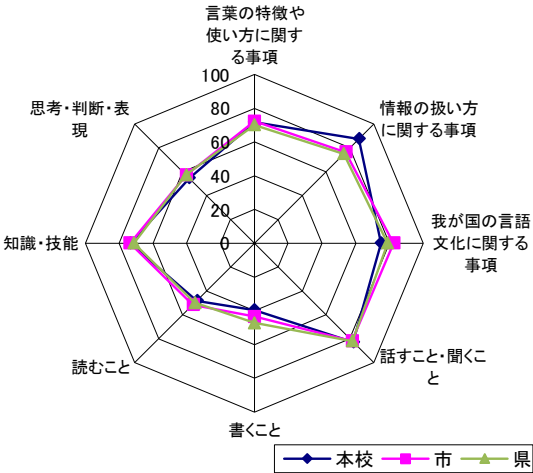
●「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちょう戦している」の肯定割合が72.2%と市や県の平均より低かった。授業や行事などを通して、粘り強く取り組むことの大切さを伝えたり、最後までやり抜くよう声掛けを行ったりしていく。

●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」の肯定割合が43%と市や県の平均より低かった。家庭学習で漢字や言葉の意味調べを推奨することや、授業の際に、国語辞典や漢字辞典を使う活動を多く取り入れて指導していく必要がある。

宇都宮市立細谷小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	71.7	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	87.5	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	75.0	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	82.8	81.9	82.0
	書くこと	39.5	43.5	47.2
	読むこと	48.1	51.4	49.8
観点	知識・技能	73.4	73.6	71.3
	思考・判断・表現	54.6	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

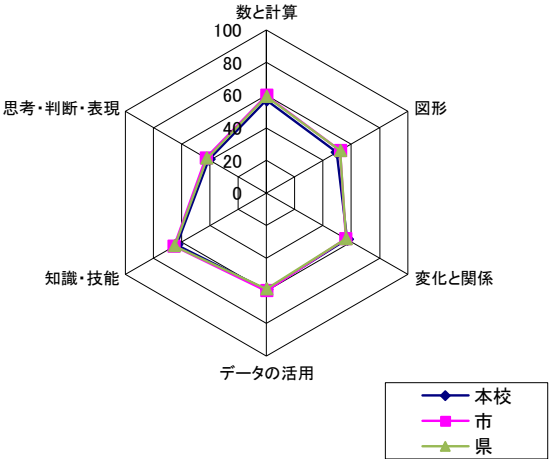
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○連用修飾語の理解について問う問題では、県の平均を2.7ポイント上回っていた。 ●連体修飾語の理解について問う問題出は、県の平均を9.4ポイント下回っていた。 ●4学年に該当されている漢字の読みについて、各設問それぞれ、県の平均正答率を1.9～4.8ポイント下回っていた。	・文の構成が理解できるよう、主語と述語や修飾語の関係について定期的に復習していく。 ・朝の学習や授業において、新出漢字を正しく習得する指導を継続するとともに、既習漢字を文章の中で使えるように指導していく。また、熟語として覚えたり、送り仮名を正しく書けたりできるように繰り返し指導していく。 ・一人一台端末のスマイルネクストドリルを積極的に活用
情報の扱い方にに関する事項	○漢字辞典の使い方を理解し、使うことができるかを問う問題では、県の平均正答率を12.6ポイント上回っていた。	・87.5%の児童が漢字辞典の使い方を理解しているが、折に触れて漢字辞典を使う活動を取り入れ、さらなる定着を図っていく。
我が国の言語文化に関する事項	●ことわざの言葉を理解して、自分の表現に用いることができるかを問う問題では、県の平均正答率を3.9ポイント下回っていた。	・ことわざの意味調べをするだけでなく、実際の生活の場面でどんな使われ方をするかを作文するなど、日常で使えるように指導していく。
話すこと・聞くこと	○領域全体の平均正答率は、県の平均正答率とほぼ同じだった。 ○意見の共通点に着目して、司会者の発言に適する内容を書く設問では、県の正答率を3.5ポイント上回った。 ●相手に伝わるように自分の考えを理由を挙げながらまとめる設問では、県の正答率を1.8ポイント下回った。	・話し方、聞き方を身に付けられるよう「話し方・聞き方あいうえお」を活用しながら引き続き指導していく。 ・話を聞く時には、話し手の伝えたいことや話の中心を意識して聞くことの大切さを指導していく ・朝の会のスピーチでは、友達の話最後まで聞く習慣・態度を身に付けさせる。
書くこと	●領域全体の平均正答率は、県の平均正答率を7.7ポイント下回った。 ●アンケートの結果から読み取ったことを1つ目の段落に書く設問では、県の正答率を12ポイント下回った。 ●文章を書く設問では、無解答率が約23%と、他の設問に比べ高くなっている。	・家庭学習に日記を取り入れたたり、朝のスピーチの原稿を書いたりすることで、文章を書くことに慣れるような指導をしていく。 ・文章の構成や文型について繰り返し指導していく。
読むこと	○領域全体の正答率は、県の平均正答率とほぼ同じだった。 ○文章を読んで感じたことや考えたことを話しているやり取りを読み、適する言葉を選ぶ設問では、県の正答率を6ポイント上回った。 ●文章の内容を説明した文を選ぶ設問では、県の正答率を7.9ポイント下回った。	・家庭と連携しながら、引き続き音読、読書を励行していく。 ・物語文を読むときには、場面や登場人物を意識しながら読むことや、説明文を読むときには、文章の中の重要な言葉や文を選び出して読むことなどを繰り返し指導していく。

宇都宮市立細谷小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.0	59.7	59.2
	図形	49.7	52.1	52.1
	変化と関係	57.0	56.1	56.3
	データの活用	59.4	60.1	58.9
観点	知識・技能	63.7	65.5	65.1
	思考・判断・表現	40.9	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

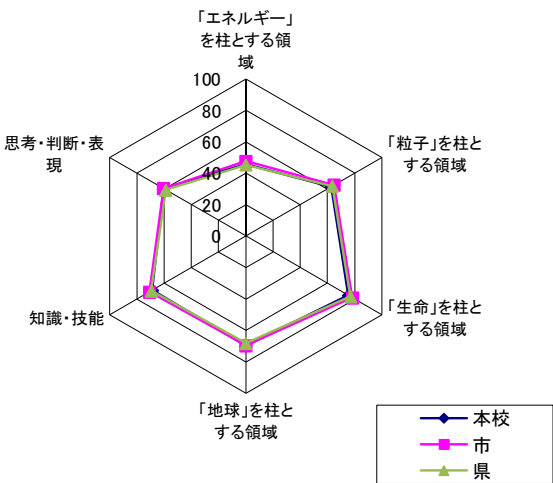
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○1兆は1000億の何倍か、数直線上の目もりが示す分数を読み取り、仮分数で表す問題は、ともに、県の平均正答率を約10ポイントほど上回っている。 ●小数の大きさを理解しているかどうかをみる問題は、約8ポイント、3けた÷2けた(余りあり)の計算ができるかどうかをみる問題は、7ポイント、概数について理解し、目的に応じて見積もることができるかどうかをみる問題は、約15ポイント県の平均正答率を下回っている。あまりのあるわり算の計算での無回答率が高い。	・大きな数の学習では、視覚的な教材を工夫して10進法が成り立つことを理解できるように工夫していく。 ・概数の範囲に「未満」という言葉が使われる意味について、具体例を挙げて指導していく。 ・今後も朝の学習や家庭学習などで、学んだことを復習することを推奨していく。 ・分数や小数の加法を整数の加法に直して処理する方法などについては、図などを使い、児童の理解を深めていくようにする。 ・一人一台端末のスマイルネクストドリルを積極的に活用する。
図形	○180度より大きい角の大きさを求める問題は、県の平均正答率を約5ポイントほど上回っている。 ●三角定規を利用して、正しい角度を選ぶ問題、ひし形の作図をする問題は、県の平均正答率を約10ポイント、7ポイントほど下回っている。また、面積の単位の間隔を説明することができるかどうかをみる問題については、無回答率が高くなっている。	・1mの教具を使って広さの量感を育てるようにしていく。 ・直方体の面と辺の平行、垂直の関係について具体物を使ってイメージしやすい指導をしていく。 ・平行四辺形などの図形の定義を確認するとともに、図形の性質を使って与えられた条件から作図する思考力を高めるようにしていく。 ・学習したことを朝の学習や家庭で復習することを推奨していく。
変化と関係	○二つの数量の関係をもとの大きさの何倍になったを問う問題は、県の平均正答率を約5ポイントほど上回っている。 ●二つの数量の関係をもとの大きさの何倍になったを問う問題は、県の平均正答率を約5ポイントほど上回ってはいるものの、無回答率が高くなっている。	・数量の関係を基準量と比較量から割合を求める問題について、図や数直線などを使いながら説明し合う活動を授業に取り入れていく。 ・伴って変わる数量を式に表すために、図や表を使って考える方法を何度も例示しながら児童の理解を深めるようにしていく。
データの活用	○2つの折れ線グラフから分かることを答える問題は、県の平均正答率を約7ポイントほど上回っている。 ●2つの折れ線グラフから必要なことを読み取る問題、二次元表の読み方を理解しているかどうかをみる問題では、県の平均正答率を約6ポイント、2ポイントほど下回っている。また、二次元表の読み方については無回答率が高くなっている。	・身近な生活に関連付けた内容を取り上げたり、他教科との関連を図ったりしながら、二次元表の理解を深めていくようにする。また、必要な数値を表から導き出す問題などでは、児童に説明する活動を取り入れて理解を深めていくようにする。

宇都宮市立細谷小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	45.8	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	62.8	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	75.3	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	69.7	69.5	68.1
観点	知識・技能	68.8	70.8	69.5
	思考・判断・表現	60.4	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○簡易検流計の針のふれ方からわかることを答える設問では、正答率が26.6%と、県の平均正答率を2.9ポイント上回っている。 ●電流が大きくなる回路を選ぶ設問では、正答率が53.1%と、県の平均正答率54.4%をやや下回った。	・実験結果を活用する力を付けるために、児童に問題意識をもたせ、予想や仮説を立てることにより見通しをもち観察・実験できるように学習計画を工夫する。 ・実験結果を整理し、話し合う活動を通して科学的な見方や考え方を身に付けることができるようにする。
「粒子」を柱とする領域	○示温インクの色の変わり方を選ぶ設問では、正答率が42.2%と、県の平均正答率を12.1ポイント上回っている。 ●金属をあたためたり冷やしたりしたときの体積の変化について正しい文章を選ぶ設問では、正答率が62.5%と、県の平均正答率を6.9ポイント下回っている。	・学習環境を整えることにより、日常の様々な自然現象を科学的な目で見るができるようにしていくと同時に実感を伴った理解を図ることを心がける。 ・実験や観察の後に考察を検討し合う場を設け、科学的な視点で根拠を示しながら論理的な説明をし合う活動を多く取り入れる。
「生命」を柱とする領域	○春や夏のころの気温や動物のようすを選ぶ設問では、正答率が87.5%と高い正答率となっており、県の平均正答率を5.6ポイント上回っている。 ●腕を曲げた時の筋肉のようすを選ぶ設問では、正答率が67.2%と、県の平均正答率を6.8ポイント下回っている。	・身近な事象の正答率が高いことから、積極的に実験や観察に取り組めるように学習環境を整える。 ・デジタル教科書や動画の視聴などを通して、自分たちでは経験できない実験や観察の疑似体験を多くさせることによって知識の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	○晴れの日の気温の変化のようすを選び、選んだ理由を答える設問では、正答率が79.7%と、県の平均正答率を15.1ポイント上回っている。 ○調べて分かったことから、土の粒の大きさと水のしみこみやすさの関係を読み取る設問では、正答率が68.8%と、県の平均正答率を11ポイント上回っている。 ●方位磁針の正しい使い方を選ぶ設問では、正答率が51.6%と、県の平均正答率を7.1ポイント下回っている。	・今後も実験や観察の後に考察を検討し合う場を設け、科学的な視点で根拠を示しながら論理的な説明をし合う活動を多く取り入れる。 ・学習した内容が身近な生活や社会の中でどのように生かされているのかを考えることで興味をもって主体的に学習に取り組むことができるようにし、より一層理解が深まるようにする。 ・実験用具や観察・観測道具の使い方を一つ一つ丁寧に確認しながら活用していく。

宇都宮市立細谷小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の肯定割合は100%であった。また、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」は67.2%で、県の肯定割合を約9ポイント上回っている。家庭学習や自主学習が習慣化されている児童が多いと考えられる。引き続き家庭と連携して、さらなる充実を図っていききたい。

○「自分には、よいところがあると思う」の肯定割合は86%、「だれに対しても、思いやりの心をもってせっている」は93.8%で、どちらも県の肯定割合より高く、自己肯定感や自己有用感の高まりが見られる。今後も、自己のよさに気付かせ、伸ばしていけるよう指導していききたい。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定割合はそれぞれ86%、73.4%であり、どちらも県の肯定割合より高い。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定割合は89.1%で、県の肯定割合よりも約10ポイント上回っている。学習に向かう姿勢や態度は身に付いてきているので、今後も「認め・励ます指導」を基本として、一人一人の力を伸ばしていききたい。

●「クラスは発言しやすいふん囲気である」の肯定割合は70.3%、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」は51.6%と低い。しかし、昨年度と比較すると向上が見られているので、ペアや少人数の学習を増やしたり、相手の気持ちを尊重し合える温かな学級づくりを心掛けたりすることで、さらなる向上を図っていききたい。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームはのぞく)」では、2時間以上3時間より少ないが一番多く27.8%で、3時間以上4時間より少ないが19.4%、4時間以上は23.6%と高い。また、「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームをふくむ)」では、4時間以上と回答した児童が20.8%見られる。これらの結果から、端末を使った動画視聴やゲームが児童にとってより身近なものになっていることが分かる。今後も家庭と連携し、ルール作りや長時間視聴による身体への影響、ゲーム依存やネット依存への啓発、情報モラル教育の充実等を図っていききたい。

宇都宮市立細谷小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自らのよさに気づき、伸ばすことができる指導の工夫	○授業における児童のよさを認め励ます支援の充実 ○自己評価、相互評価を含めた振り返り活動の充実 ○学ぶ意欲を喚起する指導の充実 ○互いに認め、励まし合い、学び合う学習の場の設定と学習形態の工夫 ○まとめの学習の充実と振り返りの方法の工夫	「先生は学習のことについてほめてくれる」と答えている児童は、4年生が90.3%、5年生が79.7%であり、特に4年生は約5ポイント県の平均を上回っている。また、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」と答えている児童は、4年生が87.5%、5年生が84.4%であった。今後も児童の良さを認め、励ます支援に努めながら、「自己有用感」を高める指導を推進していく。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	○ねらい、まとめの明示など分かりやすい板書の工夫 ○児童が自ら選択して取り組む学習活動の重視 ○ICTの積極的に活用による学びの深化	「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という質問に肯定的回答をした児童は、4年生が81.9%、5年生が86%である。学習意欲を引き出す課題提示や教材の工夫などで、「分かる・できる授業づくり」と日常指導の取組が、両学年8割以上という肯定的回答率になったと考える。
安心して伝え合い、高め合える学びあいの重視	○「きらきら細谷っ子学習のやくそく」による学習習慣形成 ○互いに認め、励まし合い、学び合う学習の場の設定と学習形態の工夫 ○目的を明確にした学び合いのコーディネート ○話の聞き方・話し方の基本的な学習態度・学習技能の育成	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えている児童は、4年生が75%、5年生が89.1%と昨年度より肯定的回答の割合が増えている。引き続き意見を交流させる場を授業の中で意図的に設けていく。
基礎・基本の確実な定着を図る指導と家庭学習の習慣化	○漢字・計算オリンピックの年2回の実施 ○家庭学習の手引きを配付しての家庭と協力した自主学習の全校での推進 ○参考となる児童の自主学習ノートを掲示するなどをした自主学習の進め方の共有	「家で、学校の宿題をしている」と答えている児童は、4年生が97.2%、5年生が100%である。また、「家で、宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と答えた児童は、4年生が68%、5年生が67.2%である。個人差はあるが、家庭学習の習慣が徐々に身に付いてきているので、これからも意欲が続くような働きかけをしていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・自分の考えを文章や言葉、式に表すことに苦手意識をもつ児童は減ってきているが、記述式問題の正答率が低く、無回答が多いことが課題である。	○相手、目的や意図、場面や状況などに応じて、自分の考えを分かりやすく表現する(聞くこと・話すこと・話し合うこと・書くこと)力を育成するための言語活動の充実を図るとともに、根拠をもとに推測する力をさらに伸ばしていく。□	・授業において自分の考えを記述する機会を意識的に設けたり、自分や他者の考えに理由を加えて話し合ったりする活動を取り入れることにより、表現力の育成を図る。 ・自主学習の中に一言日記や一行感想文などを取り入れたり、テーマを決めて自分の考えを書く機会を増やしたりしながら、要点をまとめた文章が書けるように繰り返し指導していく。